

外国語活動学習指導案

第4校時 児童数31名

第2学年3組 指導者 大塚 沙樹

ALT Marcel Williams

1 題材名 何のやさい・くだもの？

2 題材の目標

- 身近な野菜・果物を聞いて日本語と英語の音声やリズムの違いに気付くとともに、聞こえた英語やその表現に親しむことができる。(知識・技能)
- 相手の好きな野菜や果物を聞いたり、自分の好きな野菜や果物を答えたりすることができる。(思考・判断・表現)
- 相手に尋ねたり自分のことを答えたりして伝えようとすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 題材観

(1) 題材について

2学年においては、外国語活動の年間授業時数が10時間充てられている。これまでに「動作・体の部位」、「あいさつ・感情」、「動物」の英語に親しみ、本時は4時間目となる。本題材は、野菜や果物の英語や表現に慣れ親しむことをねらいとしている。2年生は生活科でそれぞれ好きな野菜を育てており、児童にとって身近で関心の高い話題の一つである。また、野菜や果物の英語の表現は、普段から親しみのあるものが多く、英語で発音したり、尋ねたり答えたりしやすいと考える。

そこで本時では、児童が育てている野菜や果物の教材から話題を広げていき、野菜や果物の英語の音声や基本的な表現に十分慣れ親しんだ後、シェフのおすすめのサラダを作る活動を行うことで、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿に迫っていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級は、男子14名、女子17名の計31名である。外国語活動に対するアンケートの結果では、「外国語の授業が好きだ。」、「英語で先生や友達とやり取りすることは楽しい。」という設問で、どちらも90%の児童が肯定的な回答をしており、児童は外国語活動に親しみをもっていることがうかがえる。しかし、「英語で先生や友達とやり取りすることができる。」と答えた児童は70%であり、自分の意見に自信がもてなかったり、発話に対して恥ずかしさや苦手意識を感じていたりすると考えられる。

そこで、本題材では、自信をもって野菜や果物を伝えられるようにするために、スモールトークにおけるALTとのやり取りの中で英語表現に触れたり、ピクチャーカードで何度も英語表現を練習したりする。また、活動の後半では、全体からグループへと学習形態を小さくし、児童と馴染みのある先生や互いの好みを取り入れたサラダを作ることで、児童一人一人が相手意識をもち、自信をもって伝え合えるようにしたい。

(3) 研究主題との関連

英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童を育てるために、教師のスモール

トークからサラダについて想起させたり児童の好みを聞いたりして、児童の興味関心を引き出し繰り返し英語表現に慣れ親しむようにする。その際、教師が一方的に話すのではなく、児童に問いかけたり、同じ考えの人を確認したりすることで、何度も野菜や果物の英語表現に触れ、自分も英語を使っておすすめのサラダを作りたいという意欲を引き出す。教師がスモールトーク等で、率先して何とか相手に伝えようとする態度を見せることで、安心して英語で伝え合おうとする意欲を高める。(仮説1)

相手意識や目的意識をもたせ自分の考えを伝えるために、シェフのおすすめのサラダを作る場面では、一人一台端末を活用する。注文するウェ이터役、注文を伝えるカスタマー役、端末を操作するシェフ役に分かれて注文を伝えていくという活動を行うことで、野菜や果物の名前に何度も慣れ親しませていく。また、最後に完成したサラダをウェ이터役に紹介することで、児童が双方向に伝え合う必然性のある言語活動を設定した。(仮説2)

外国語活動の時間で毎回英語の歌を歌ったり、授業内で相手を称賛する“good!”などの英語表現を使ったりすることで、児童が自然に英語表現を用いて相手に伝えようとする気持ちを高めていく。また、音楽や朝の会・帰りの会の時間などで、日常的に繰り返し英語の歌や表現を使うことで英語表現に触れる機会を増やす。(仮説3)

以上の取組みにより、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して」に迫りたい。

4 本時の指導

(1) 題目 何のやさい・くだものでおすすめサラダを作ろう

(2) 本時の目標

- ・簡単な英語で、それぞれの好みに合わせた野菜や果物を注文したり、サラダを作ったりすることができる。(思考・判断・表現)

(3) 授業の観点

- ・スモールトークを通して、英語表現を繰り返し聞かせたり、発話したりしたことは、児童が自信をもって自分の考えを伝えるために効果的であったか。
- ・おすすめサラダを作るために何度も英語を繰り返しながら伝え合う活動を行ったことは、児童一人一人が相手意識をもち、考えを伝え合うために効果的であったか。

(4) 本時で身につけさせたい言語材料

- ・ watermelon/cabbage/cucumber/green pepper/eggplant/orange/… (野菜/果物)

(5) 展開 ◎児童指導上の留意点 ※人権教育上の配慮 ☆研究主題との関連

過程及び児童の活動	学級担任の活動	ALT の活動	指導上の留意点
1 あいさつ・歌 【Greeting】 S1: Happy. Ss: (挙手)	・英語であいさつをし、英語の歌を歌う。 Hello, everyone. Let's sing a song.	・英語であいさつをし、英語の歌を歌う。 How are you today?	・英語で元気よくあいさつをすることにより、活動への意欲を高める。

2 導入とめあての確認 ・教師のスマールトークを聞き、本時の題材をつかむ。 S: 私はキュウリを育てているよ。 S: 果物もサラダに入れられるのか。私も作ってみたいな。 【Today' s goal】 シェフおすすめサラダをつくろう。	・学年で育てている野菜の話題から、本時の学習内容に繋げ、食べ物のカードを掲示する。 I grow tomatoes. I made tomato salad. I like tomato salad. ・1年時に学習した「サラダでげんき」の本を提示し、ALTや児童とやり取りしながら英語での言い方を確認する。 ・本時のめあてを確認する。	・HRTと野菜や果物についてやり取りをしながら、食べ物のカードを掲示する。 I like fruit salad. Carrots, oranges and apples.	・写真や絵を掲示しながら話をし、児童の興味を高める。 ・児童とやり取りし、児童の意欲を引き出しながら、本時のめあてを設定していく。 ☆英語表現に何度も触れ、英語に慣れ親しむ機会を設定する。
3 野菜や果物の言い方を確認する。 4 活動 ①マーセル先生へのサラダ ・注文の仕方や端末の動かし方を練習し、活動内容を確認する。 ・注文するウェ이터役、注文を伝えるカスタマー役、端末を操作するシェフ役に分担し、シェフおすすめサラダを作る。 Finish. Carrots, apples, oranges and ~. Here you are. ②司書の先生へのサラダ ・動画を視聴しながら、司書の先生へのサラダを作る。 cabbage/corn/eggplant	・絵カードを使って、野菜や果物の英語に慣れ親しませる。 ・教師とALTと児童で見本となる活動を見せ、見通しをもたせてから活動に入る。 ・ALTの好きな3品とシェフ役のおすすめの1品を選ぶようにする。 Do you like sour food? ・完成したら、ウェ이터役にサラダを見せて紹介する。 ・一時停止をするなど、児童の様子に合わせながら動画を見せる。 ・中間発表を行い、4つの大切や相手の好みを意識できていた班を称賛し、意識付けをさせる。	・絵カードを使って、野菜や果物の英語に慣れ親しませる。 ・教師と児童と協力して、デモンストレーションを見せる。 I like carrots. I like apples. I like oranges. Yes, I do. Thank you. It's delicious. ・発音や活動の支援をする。	・ALTの発音をよく聞き、日本語との音声の違いに気を付けて練習できるようにする。 ☆「4つのたいせつ」(Smile, EyeContact, ClearVoice, Response)に留意したデモンストレーションを見せることで、活動の見通しをもたせる。 ※活動に参加する姿を称賛し、みんなで good の掛け声を掛けるなど、自信をもって活動できるように促す。 ・単に好き嫌いだけでなく、味やいろどりなどを意識した材料の好みを伝えることで、シェフおすすめの一品を選ぶ手立てとなるようにする。 ◎掲示物や帽子を使って、役割やルールを視覚的に分かりやすく提示する。

③自分の好きなサラダ ・ 1 番の人 ・ 2 番の人 ・ 3 番の人	・ 一人一台端末で振り返りを記入させる。		・ 本時のねらいに即して記入するよう声をかけることで, できるようになったことを自覚させ, 次時への意欲を高められるようにする。
評価【評価の観点】(評価方法) 簡単な英語で, それぞれの好みに合わせた野菜や果物を注文したり, サラダを作ったりしている。 【思考・判断・表現】(活動観察)			
5 振り返り 【Reflection】 ・ 野菜や果物の言い方が分かった。 ・ 友達は果物ばかりだったから野菜も入れてみたよ。 ・ 甘いものが好きと言っていたからスイカを入れてみたよ。			
6 あいさつ 【Greeting】 Ss: See you.	・ 英語であいさつをする。 That's all for today. See you.	・ 英語であいさつをする。 See you next time.	・ 楽しく英語を学習する雰囲気の中で活動を終えるようにする。

2年生 「何のやさい・くだもの？」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【具体的な工夫】

主活動に繋がる前の導入場面で、児童が野菜や果物を、英語を使って伝えたいという気持ちを高めるために、何度も英語を聞かせることが大切と考え、以下の取り組みを行った。まず、児童や教師が生活科で育てている野菜の写真を提示し、児童や ALT とスモールトークを行った。英語が苦手な児童も安心して発表できるよう、スモールトークを通じて何度も英語に触れる機会を増やした。次に、「野菜や果物を美味しく食べるためにサラダを作ろう。」と投げかけ、ALT へのおすすめのサラダ作りを行った。さらに、児童にとって馴染みの深い司書の先生からのビデオメッセージを通して、司書の先生へのサラダを作る活動を行うことで、児童の興味を引き出し、どの児童も主体的に活動に取り組むことができるようにした。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【具体的な工夫】

主活動として「おすすめサラダを作る」という場面を設定した。その際、サラダに入れる材料を野菜に限定せず、フルーツサラダとして果物も入れてもよいこととし、児童が使える語彙を増したことで、自分の思いを表す幅が広がった。さらに、注文をするウェ이터役、注文を伝えるカスタマー役、1人1台端末を操作するシェフ役に分かれて注文を伝え合うことで、英語を発音して伝え合う必然性のある場面を設定した。ウェ이터役が伝える3つの野菜や果物を聞き取って選ぶだけでなく、最後の1つはシェフ役が相手のことを考えておすすめの品を1つ入れることで、相手の好みを考えてサラダ作りができるよう工夫した。シェフ役も相手意識をもって話せるよう、最後に完成したサラダをウェ이터役に紹介することで、互いにやり取りができる場面を設定した。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○教師や児童が生活科で育てている野菜に対して、児童は特に興味関心が高く、自分の育てている野菜について話したいという気持ちを引き出すことができた。また、果物も話題に入れたことで、更に興味が高まり、友達に伝えたいという思いをもち課題に取り組むことができた。

- ALT へのおすすめサラダ作りをすることで、自分もサラダを作りたいという児童の意欲を引き出すことができた。また、同時に端末の操作や使う英語表現を全体場で何度も聞くことができたため、活動の見通しをもつことができ、安心して活動に取り組んでいた。
- 司書の先生が話す動画を視聴する場面では、話す英語をよく聞き、相手の好みを考えてサラダ作りをする姿が見られた。
- スモールトークやデモンストレーションの場で、英語を繰り返し聞かせることで十分なインプットの量を確保できたため、次の活動で児童が自然に無理なく英語を使ってやり取りができていた。
- ALT へのサラダ、司書の先生へのサラダと、デモンストレーションを2回設定したことで、その後の主活動の時間を十分にとることができなかった。時間配分が課題として残った。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫 (仮説2)

- ウェイター役としてシェフに注文を伝えるという役割をもたせた活動は、子どもたちがいきいきと役になりきって楽しく活動ができていた。カスタマー役は自分の好きな食べ物を英語で伝えようとし、ウェイター役は注文を注意深く聞き取ってシェフ役に伝えていた。シェフ役は英語を聞き取っておすすめサラダを作る姿が見られた。
- 各役割のユニフォームとして、帽子の色を変えたことで、自分や相手の役割が明確になり、ローテーションもスムーズに行えた。
- ウェイター役の好みの品2つとシェフのおすすめ1つを決めることで、注文を聞き取るだけでなく、相手の好みを考えたサラダ作りをすることができた。最後の1つを決める際、シェフ役がウェイター役を通して、ウェイター役に野菜がいいか果物がいいか好みを聞いたり、全体のいろどりを考えて選んだり、相手のことを考えて積極的に英語を用いてコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。
- 活動の途中で、アイコンタクトやはっきりした声といった「4つの大切」について意識付けることで、相手意識をもったやり取りができていた。
- 教師の指示や説明については、さらに日本語を使わず、簡単な英語のみを使って授業を進められるとよかった。

《活動の様子》

